

千葉の民話より

田んぼの茶屋

1幕8コマ

様

作 藤原 玄洋

でてくるもの

源太 (行商)

キツネ

娘 (キツネ)

じろ作 (百姓)

お清ばあさん

町女 (立ち絵人形)

町男 (立ち絵人形)

町人 (女声) 1・2・3

(男声) 4・5・6

司会

スタッフ

作 藤原 玄洋

演出 藤原 玄洋

美術 高山 泰子

人形美術 高山 泰子

音楽 坂本 妙子

音響効果

制作

(C) 2003, 2007 FUJIWARA Gen'yo

オープニング

——司会、下手より登場。パネル前で。

司会

大変長らくお待たせいたしました。ただいまより、コミュニケーションによります人形劇「田んぼの茶屋」を上演いたします。最後まで、ごゆつくりご覧ください。

M₁
オープニング

——司会、下手に退場。

音楽。

第1コマ ニンジン畑

——パネルが開くと、上、下手には立木のパネル。

季節は、晩秋。

舞台前は畑。ケコミ上手寄りに肥だめ。ケコミ下手には、草むら。

ケコミ中央には、ニンジン畑。

じろ作の声

ほいさ、ほいさ。

——肥桶こえおけをかついだじろ作、下手より登場。肥桶には、ひしゃくが入っている。

じろ作

ほいさ、ほいさ。(ゆれる肥桶に合わせて)ほいさ、ほいさ、ほいさ、ほいさ、ほいさ。

——上手の肥だめこえの前で、桶おけをおろす。

じろ作

どっころしよ。今日も、ええ天気だなあ。仕事日ひより和じや。

さーて、肥やしを肥だめに入れなくちゃ。(ひしゃくですくいながら)
おととつとつと、まだ、できたてのうんちとおしつ、こだから、足
にひっつかないように気をつけて……。 (肥だめに入れる) これで何カ
月もしたら、いい肥やしになるんじや。畑にまくと、野菜のいい
栄養になって、それは立派なニンジンやダイコンができるんじや。
ありがたいことじや。

——肥だめに、肥やしを全部入れ終わる。

じろ作 さーて、これでよし。(肥桶をかたづけける。)

——ニンジン畑に近づき。

じろ作 おーおー、ニンジンがよく育っている。肥やしのおかげじや。

——クワで、畑を耕しはじめる。下手から、キツネが様子を見ている。

そつと、畑に近づき、ニンジンをくわえて、すばやく逃げる。

じろ作 (観客の反応に気づき) どうした!? (観客の声を聞いて) なにつ、キ

ツネがニンジンを持っていったあ? ありやーあ、キツネのヤツ。
(観客に) どつちに逃げてつた? あつちか。ちくしようめ、(下手
に) いないぞ。今度出てきたら、ゆるさんぞ。

——再び、ニンジン畑を耕す。キツネが、そつと現れる。

観客の反応を見て、ニンジンを取れずに、逃げ去る。

じろ作 (観客の声に) どうした! (観客の「キツネが来た」の声を聞いて) どつ

ちじや……。 いないじやないか。しつかり見張つてくれないと困
るじやないか。(畑を耕す)

——キツネ、再び現れる。観客の声。

じろ作 あつ、キツネだ。こらーつ。

——キツネ、ニンジンをくわえる。じろ作を突き飛ばし、上手ソデに逃げる。

じろ作、起きあがり、追いかけて上手ソデに退場。

じろ作(声) こらー、待ちやがれえ。

——しばらくして、じろ作、上手ソデから戻る。

じろ作 まったく、とんでもない野郎だ。ニンジンができたところに、や
つてきて、せつかくのニンジンを持っていきやがる。今度来たら、
承知しないぞ。

——じろ作、再び畑を耕しはじめる。

（ぎょうしやう）
行商の源太、カゴを背負って下手から登場。カゴにはダイコンなど野菜が見える。

源太 じろ作、いい日和だねえ。

じろ作 おや、源太。これから出かけるのかい？

源太 これから、一稼ひとかせぎさ。悪いんだけど、いつものようにニンジン
をわけてくれないか。

じろ作 こっちの方のをやってくんな。

源太 よしきた。

——2人でニンジンを抜く。抜いたニンジンの泥をはらい、ケコミ中央に並べる。

じろ作 こんなもんで、いいかな。

源太 充分、じゆうぶん。

じろ作 カゴに入れてやろう。（カゴに入れてやる）よし、いいぞ。

源太 ありがとう。（立ち上がり、上手に）

じろ作 気をつけてな。おー、そうそう、さつき、キツネの野郎がニン
ジンを盗みに来てやがった。おまえも、キツネに化かされないよ
うにな。

源太 バカいうな。

じろ作 おいおい、このごろなあ、村はずれの田んぼの川つぶちに、キ
ツネが出るらしい。それで人を化かしているそうだ。

源太 ハハハハ、オレがキツネのヤツなんか化かされるもんか。じ
やあ、いつてくらあ。

——源太、上手に退場。

じろ作 さてと。もうひと仕事、がんばるか。（再び、畑を耕し始める）

——パネル、閉まる。（パネル下手裏に立木、スタンバイ）

第2コマ

田んぼへの道

(パネル前)

——パネル前に、源太、下手より登場。

源太　じろ作のニンジンをわけてもらったから、たくさん売らなくちや。

——源太、上手に退場。

川の流れる音。

第3コマ

村はずれの田んぼ

——パネル開くと、ケコミは黄色に実った田んぼ。奥には川が見える。下手パネルに立木。

川面に2く3度、魚が飛びはねる。水しぶき上がる。

キツネが出てきて、魚を捕まえて退場。

源太、下手より登場。

源太　ちよつと、ひと休みするか。

——竹筒をとりだして、ケコミに腰かけ、水を飲む。

キツネ再び、姿を見せて、魚を探している。

源太　ふー、冷たくて、うまいなあ。(振り返って、キツネを見つめる) ややっ、キツネのヤツだ。(石をさがして) この野郎。(キツネに向かって投げつけ、走り寄る)

——キツネ、驚いて逃げる。

源太 オレ様は、お前なんかにはかされなからなあ。ちえつ、逃げちまいやがった。さーて、遅くならないうちに出かけるか。商売、しようばい。

——源太、上手に退場。
パネル閉まる。

第4コマ 町への道 (パネル前)

——下手、パネルに立木。

お清、上手より登場。すぐに源太、下手より登場。

お清 おや、源太さん。こんなに早く、どこへいきなさる。

源太 ああ、ばあさん、おはよう。町まで野菜を売りにいくのさ。

お清 精せいのでること。しつかり、お稼かせぎよ。

源太 ありがとうよ。

——お清、下手に退場。

源太 いつも元気なバアちゃんだこと。おれも、がんばらなくちや。商売、しようばい。

——源太、上手に退場。
タンバリンのリズム。

第5コマ 町の往来

——パネル開くと、町の往来。おうちらい

立ち絵の町の人、上・下手パネルより登場。舞台を横切つて退場。

源太、下手パネル奥より登場。

源太 さあて、ここらあたりで、店を広げるか。商売、しようばい。

——ケコミ中央に、カゴを下ろして、店を広げる。

源太 まずは、ダイコンとニンジン。(あとはアドリブで野菜をならべる)さて、これでよしつと。(観客に向かって)さあ、いらつしやい、いらつしやい。おいしい野菜はいかが。ニンジン、ダイコンにハクサイ、なんでももあるよ。さあ、いらつしやい、いらつしやい。

——立ち絵の町女、下手パネルよりケコミ前に登場。

源太 いらつしやい、いらつしやい。安いよ、やすいよー。

町女 ナスと、ハクサイをおくれ。

源太 はいはい。ナスと、ハクサイね。(渡す)とれたてのニンジンも

あるよ。どうだい？

町女 じゃ、ニンジンもおくれ。

源太 毎度っ。

町女 全部でいくら？

源太 はい、8文です。

町女 じゃ、これで。(お金を渡して、野菜を受け取る)

——立ち絵の町女、野菜を持って、上手パネルに退場。

源太 ありがとうございます。また、どうぞ。

——立ち絵の町男、上手パネルよりケコミ前に登場。

源太 いらつしやい、いらつしやい。安いよ、やすいよー。
町男 兄さん、ダイコンをおくれ。

——立ち絵の人々、上・下手パネルよりケコミ前に登場。後ろで待っている。

源太 はいはい。ダイコンね。とれたてのニンジンもあるよ。どうだ
い？

町男 じゃ、ニンジンもおくれよ。

源太 毎度っ。5文です。

町男 はい、これで。(お金を渡して、野菜を受け取る)

源太 毎度。

——立ち絵の町男、裏返すと野菜を持った人形に。下手パネルに退場。

町人1 オレにも、ニンジンとナスをおくれ。

源太 ニンジンとナスね。

町人2 私にもください。

源太 よしきた。

町人3 オレにも、ニンジンとネギをおくれ。

源太 ニンジンとネギね。

町人4 兄さん、ダイコンとハクサイくださいいな。

源太 あいよ。ダイコンとハクサイ。

町人5 早いとこ、ナスと、ニンジンと、ハクサイ。

源太 はいはい、おまちを。はい、どうぞ。あとは、ダイコン1本だ。

町人6 じゃ、私におくれ。

源太 ありがとうございます。また、どうぞ。

——立ち絵の町の人々人形を裏返すと、野菜を持った絵に変わる。上・下手にわかれて

パネルに退場。

源太 あー、今日は大繁盛だ。^{はんじょう}すっかり全部、売れちゃった。お宝

もどつさりだ。(巾着^{きんちやく}をふる。銭^{ぜに}の音)さあて、店じまいして戻るとす
るかあ。

——源太、店じまいをして、空のカゴを背負う。

タンバリンのリズム。源太、下手パネル奥に退場。

パネル、閉まると帰り道。立木は下手。

第6コマ

田んぼへの道

(パネル前)

——源太、上手より提灯ちようちんを持って登場。

源太 あー、今日は、ほんとによかった。たんまり、稼げたぞ。(胸をたたく。銭の音ブルブル、ちよつと冷えてきたな。早く帰って、お酒でもいっぱいやるか。あー、すっかり、暗くなっちまったなあ。急いで帰ろう。

——源太、下手に退場。

音楽。

第7コマ

田んぼの茶屋

——パネル開くと、上手奥パネルに茶屋ちやや、茶屋の前のケコミには、毛氈もうせんの腰掛け。

ケコミ下手に、金屏風きんびょうぶ。舞台奥に三日月。(下手パネル裏の立木はずす)

源太、茶屋の裏から登場。

源太 (茶屋を見て) おや、こんなところに、茶屋なんてあったかなあ。

(茶屋の前で立ち止まり、首をかしげる)

——娘に化けたキツネ、茶屋から登場。

娘 いらっしやいませ。どうぞ、お寄りください。

源太 (傍白ぼうはく)こりや、きれいな姉さんだ。(娘にこんなところに茶屋なんてあったつけ。

娘 はいはい、本日開店したばかりです。しっかり、サービスいたしますよ。

源太 そうかい。(茶屋に入り、毛氈に腰掛ける)じゃ、お茶をいっぱい。

娘 おやおや、お茶ですか。もつと、体の暖まるものがありますよ。

源太 暖まるものって、酒のことかい？

娘 いい、お酒がありますよ。今日は、開店大サービスですから、5文で飲み放題ですよ。

源太 5文で飲み放題かい？ それはすごい。じゃ、酒をたのむよ。

娘 はいはい、少々お待ちを

——娘、茶屋に入る。

源太 おかしいなあ。こんな茶屋なんて、朝通ったときには、なかつたのになあ。

——娘、茶屋からお酒をのせた盆ぼんを持って出て、ケコミ中央に置く。

娘 どうしたんですか、だんな。さあ、おひとつどうぞ。

源太 いやあ、きれいな姉さんのお酌かい？

娘 いやですよ。そんなこといって。(酒をつぐ) さあ、さあ、ぐつとあけてくださいな。

源太 じゃ、遠慮なくいかせてもらおうよ。(酒を一気に飲み干す)

娘 まあまあ、いい飲みっぷりなこと。兄さん、そんな小さいものじ

やなく、これでぐつとやってくださいな。(大きな湯飲みを出す)

源太 ハハハハ、そうかい。5文で飲み放題だからなあ。すまないねえ。

娘 サービスは、本日限り。(酒をつぐ) どんどんいってください。

源太 すまないねえ。(二息に飲む) ふつ、はー。こりやうまい。いい酒だあ。

娘 はいはい、ドンドンいってくださいな。(酒をつぐ)

源太 ウグウグ。うまい、こりや、きくねえ。いい酒だあ。ちよつと、酔っぱらってきちゃったかな。

娘 はいはい、サービス、サービスですから、どんどんいってくださいよお。

源太 ウイーッ、ヒック。おらあ、よっぱらちやったあー。なんだか、眠くなちやったなあ。(寝ころがる)

娘 やですよー。こんなところで眠ちやったらあ。(源太を起こす)

源太 ウイーッ、ヒック。

娘 そうだ、お客さん。お風呂がありますから、ひとつ風呂あびて、

さっぱりしてくださいな。(源太を起こす)

源太 えっ？ 風呂？ そいつは、ありがたい。いいのかい？

娘 はいはい、こちらですよ。足元に気をつけて……。

——金屏風の裏に案内する。すぐに娘、出てきて。

娘 じゃ、ごゆっくり。

源太(声) すまないなあ。それじゃ、遠慮なく風呂に入らせてもらおうよ。

——娘、ケコミ中央で、効果音とともにキツネに戻り、様子をうかがう。

源太(声) あー、極楽、ごくらく。いい湯だあ。なんだか、よっぱらって眠くなつてきちゃったなあ。グー、グー、グー……。

——キツネ、効果音とともに茶屋、とっくりの盆を消す。

金屏風の中に入り、巾着をくわえて出てくる。(銭の音)

キツネ、上手に走り去る。

音楽。

舞台奥の月、下手ケコミの中に沈む。
パネル、閉まる。

第8コマ 田んぼの朝

——ニワトリの声。

川の音。パネル開く。

ケコミ下手に、肥だめがある。

源太は、肥だめの中で、眠りこけている。

じろ作(声) おーい、おーい、源太ー。

お清の声 源太さーん。

——2人、上手。パネル裏より登場。

お清 (上手で)きのうは、源さん帰ってこなかったのかあ。

じろ作 ああ、そうなんだ。酔っぱらって川にでも、はまっちゃまったのかと心配したが、川にはおらんかったなあ
お清 ずいぶん探したが、おらんかった。

——じろ作、下手の源太に気づき。

じろ作 あつ、源太。源太ー、どうした。肥だめにはまっちゃまったのかあ？

お清 (大声で) 源さん、源さん。

じろ作 源太。源太。おい、起きろつ。

源太 うん？ あつ、あーあ、すっかり眠っちゃまったあ。あつ、あーあ。ゲツ、こりやなんじゃ？ 肥だめじゃないか。

お清 源太、肥だめに落っこちたのか？

二人 ハッハッハッ。

——源太、肥だめから出ようとする。

じろ作 こら、くさい、くさい。こつちに來るな。

お清 くさい、くさい。鼻が曲っちゃう。

——キツネ、川の上手から登場。魚を探す風。

じろ作 源太、川の水で、しっかり洗ってこい。

お清 あつ、キツネじゃ。

——キツネ、魚をくわえて退場。

じろ作 ほらみろ、キツネに化かされたんじや。

源太 えーっ。じゃ、酒を飲ませてくれた、あのきれいな姉さんは、キツネだったのかあ。

お清 酒もほどほどにしなきゃな。

じろ作 ほらみろ、化かされたじやないか。

——源太、着物をさぐる。巾着がない。

源太 あーっ、ない、ないっ、巾着がない。おらの大事なかせぎがなくなっちゃまった。ちくしよめ。キツネの野郎め。(泣く)

お清 お前、キツネになんぞ悪さでもしたのか？

——キツネ、出てきて、巾着を投げ返し、すぐに退場。銭の音。

源太、ケコミの巾着に飛びつく。

源太 ありがてえ、ありがてえ。(巾着を振る。銭の音)

二人 ハッハッハッ。(源太、お清に近づく)

お清 くさい、くっさい。こっちへ来るな。

じろ作 源太、いいから川の水で、しつかり洗ってこい。

二人 ハッハッハッ。

——音楽。

源太 (ケコミ中央で) ありがてえ、ありがてえ。

——パネル閉まる。

二人 ハッハッハッ、ハッハッハッ。

——司会、下手よりパネル前に登場。

司会 キツネに石を投げた源太さんは、しつかり仕返しされてしまいましたね。これで、千葉の民話「田んぼの茶屋」のお話は、おしまいです。本日は、最後までありがとうございました。(退場)

この作品は、最初2002年に「人形劇団ぐるーぷ・あ」のために書き、上演されました。劇中ニンジンが出てくるのは、劇団が千葉県船橋市にあったので、地元で上演するため、特産品をとの希望からです。

場面転換が多数あるのは、私のホームページで紹介したパネルを使った人形舞台を前提に、場面転換が途切れることなくできるという演出上の理由からです。一般的なケコミので上演する場合には工夫が必要かもしれません。

その後、2006〜12年、人形や、セットも譲り受け、都立桐ヶ丘高校のコミュニケーション工房の授業の教材として使いました。ルビがふってあったり、音楽のキツカケや演出上の指示などが書き込まれているのはそのためです。

藤原玄洋 2017・4・8